

令和5年度 研究リーフレット

子どもが夢中になって遊ぶ 保育を目指して

～友だちとつながり 遊びを深める～



はじめに

今年度も鳥取大学附属幼稚園には、「夢中になって遊ぶ」子どもたちの姿があふれていました。

園庭に咲く花びらで色水をつくる3歳児。「〇〇ちゃんもやりたい!」と遊びの輪が広がっていきます。いきいきとダンスで自己表現する4歳児。まだダンスの輪に入っていない友だちをみつけると、「いっしょに踊ろう」と手をとって誘い入れる様子がみられます。大型積み木をいっしょに運び、声をかけあい、大きな船や家を作り上げる5歳児。みんなで力を合わせるからこそできるダイナミックな遊びは、自分たちでやり遂げた満足感にあふれています。さらに遊びは、年長児への憧れの気持ちや、子どもたちの教え合いによって、学年を超えて広がっていきました。こんなふうして、「みんなといっしょに遊ぶのって楽しいな」という満ち足りた思いが、子どもたちのこころにため込まれていくのでしょうか。

本園では、子どもが「夢中になって遊ぶ」ことを引き出す保育を目指して、全教職員が園のすべての子どもたちの発達を支援する態勢で日々取り組んで参りました。私たちが探究してきた保育の研究成果を、このリーフレットにまとめました。お読みくださった皆さまにとって、明日からの保育の一助となりましたら幸いです。 園長 寺川 志奈子

本園の保育について

本園は、幼児期の子どもにとって「遊びは学びである」という考えの基に、子どもが自ら遊びを見つけ、試行錯誤し、主体的・協同的に遊びを深める中で様々な経験をするを中心に据えて保育を行っています。人やモノ、コトとの関わりをもちながら、様々な心が動く体験を通して遊びは充実していき、好奇心や探究心、気付き、工夫などを始め多くの学びが生まれると考えています。



令和5年度 研究テーマ

子どもが夢中になって遊ぶ保育を目指して ～友だちとつながり 遊びを深める～

今年度の取組

昨年度から、子どもが夢中になって遊ぶ保育を目指して研究を進めている。

日々、子どもたちの願いや思いから生まれるつぶやきや思考を大切にしたい遊びの展開を重視してきた。援助については、友だちとの関わりやつながりをもち、遊びを深めていくように模索した。今年度は、保育者が、右の「遊びの深まり イメージ図」を共通理解し、研究を進めていった。(図1)

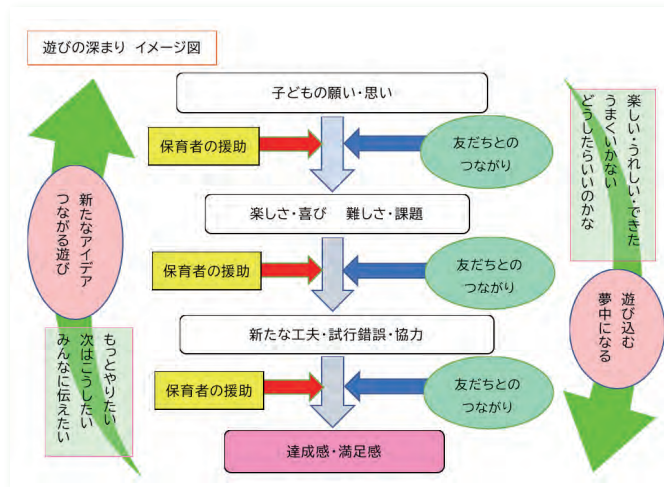


図1

子どもの思考の流れを大切に

遊びのつながりを意識し、
保育の見通しをもつ

フォトエピソード記録

図2

これまで、ドキュメンテーションで遊びの一場面を記録していくことで、一つ一つの遊びの充実を図ってきた。今年度は、子どもたちの思考の流れをより大切にするため、また、保育者が遊びのつながりを今まで以上に意識して、保育の見通しをもちやすくするため、数か月の長期間の記録（フォトエピソード記録）を作成することとした。遊びが深まった場面での子どもたちの思考の流れを、友だちとのつながりや保育者の援助とともに時間の経過が分かるように記録した。(図2)

研究の目的

子どもたちの願いや思いから生まれるつぶやきや思考を大切に、子どもが夢中になって遊ぶ保育を探る。



色水遊び 楽しいな

3歳児 4月下旬～7月

主な遊びの流れ

入園式の日からテラスにプランターがあり、日頃からいろいろな花を見ていた子どもたち。ある日、保育者がポウルに花びらを浮かべて混ぜたり、ビニル袋に入れてもんだりすると、「やってみたい」という子どもが出てきた。当初は、色を出すことより花が浮かんで回る様子や水の冷たさを楽しんでいた。そのうち、水に色が付くことに気付き、色水遊びに発展していった。ヤマモモの実がなる頃には、実を拾ったり遊びに使ったりすることを楽しんだ。

子どもの思い・願い

4月下旬

お花で遊べるんだ
楽しそう

このお花で
遊んでいいんだね

水に浮かんで
きれいだよ

ももも 気
持ちいいな

子どもの姿

友だちと同じ場所で
同じ遊びを一人一人でする。季節の自然に親しむ。【健康な心と体・自然との関わり】

保育者の援助

保育者が遊びのモデルとなり、やりたい子どもに遊び方を伝え、一緒に楽しみながら遊ぶ。

袋に入れて持って
帰りたいな

5月中旬

花びらで遊ぶの
楽しいな

水に色が
ついたよ

ざるやすりこぎを使って色を出す様子を見せ、色水遊びへの興味関心を高める。

どんな色に
なるかな

遊び方が分かり、繰り返し同じ遊びを楽しむ。【健康な心と体】

6月中旬

いろんな色を出したい

上にあげると
色が変わる！

混ぜたら
どうなるかな

おもしろい発見だね！
みんなに見せてあげようよ



工夫や発見したことに共感し、周りにアナウンスして広める。友だちに伝えるように促す。

こぼさない
ように・・・

〇〇ちゃん
見て見て！

友だちの名前と顔が一致し、友だちを見て、真似したいという思いが出てきた。自分の作ったものを見せたり、色が出るやり方を友だちに伝えたりする。【自立心】

ぼくも色水
やろうかな

6月下旬～7月

ヤマモモで遊ぼう

いっぱいひろったよ

ヤマモモ拾いを楽しむ。
【自然とかかわり】

ヤマモモ遊びのきっかけづくり及び意欲付けをする。

ヤマモモがいっぱいあったね。一緒に拾いに行こう！



どうしたら色がでるかなあ。ざるを使ってみよう。

友だちと一緒に色水作りに挑戦する。すりこぎでうまくいかないときに、ざるを使うなどの工夫をする。【自立心・思考力の芽生え】

ざるに入れて混ぜたら
ちょっと色がついた！



【評価】色水遊び 楽しいな(3歳児4月下旬～7月)

評価の視点(10の姿) ◎子どもの姿 ☆援助と環境構成	・子どもの姿や思い、 保育者の読み取り ○保育者の思いと援助 ◎援助に応じた 子どもの姿	○よかった点 ●改善点	・引き継ぎ、 指導計画への反映
◎季節の自然や水に興味をもち、関わって遊ぶことでその感触を楽しんだり、よさや遊びのおもしろさを知ったりする。(⑦) ☆保育者自ら自然や水に関わり、遊び方を見せたり、一緒に遊んだりして、そのおもしろさや感触を共有する。(⑦) ☆季節の自然にふれられるように、子どもたちを戸外に誘い、その時期の自然現象を見逃さず、見たりふれたりする機会を作る。(⑦)	・花びらで遊べて楽しい、おもしろいと感じ、もっとやってみたいと思っている。 ○花びらを浮かべる遊び、色を出す遊び等、一人一人の思いを大切にするために、遊び方を見せたり一緒に遊んだりする。 ◎色水遊びを繰り返して楽しんだり、できたものをビニール袋やペットボトルに入れて持ち帰っておうちの人に見せたりした。 ・花びらで色が出せるようになったうれしさを感じている。いろんな花で試そうとしている。 ○この時期ならではのヤマモモ遊びができるように、日頃の会話からヤマモモに興味をもてるようにしたり積極的にヤマモモ拾いにさそったりした。また、色や感触の変化に気付くような声かけをした。 ◎楽しんでヤマモモ拾いをして、色水遊びやごっこ遊びを楽しんだ。繰り返し拾いに行き、色や感触の変化に気付く様子もあった。	○身近にある花や実を用いた遊びにより、身の回りの環境に興味をもてた。また、季節によって変化するヤマモモについて知ることができた。 ●色を出す遊びを始めたのが少し早かった。もっと、花びらを浮かべて遊ぶなどの花びらそのものの自体を楽しむ時間を長く取った方がよかった。	・色水道具を出すタイミングを検討する。 ・必要以上に花びらを使っている子どもへの声かけをする。 ・ヤマモモを冷凍しておく、遊びを継続できる。
◎保育者と一緒に遊ぶことで安心感をもつ。友だちの様子に興味をもって遊び方を真似して挑戦し、できたことで満足感や自信をもつ。(①) ☆安心感を与えられるように一緒に活動したり、見守ったりする。また、できたことを認める声かけをする。(①)	・保育者や友だちの遊ぶ様子をよく見ている。真似しようとしているがやり方が分からない時もある。 ○友だちとの関わりをもてるように、「どうやって作ったの」「〇〇ちゃんと先生にもくさいな」などの声かけをして、子ども同士のやりとりへつながるように援助する。 ◎自分のできることややったことを、教える姿が見られた。また、作ったものを大切に持ち帰ったり、周りの保育者や友だちに見せたりしていた。	○一緒の場所で遊ぶことで、友だちの遊んでいる様子を見て話をしたり真似をしたりすることに自然とつながった。 ●ジュース屋さん等のごっこ遊びの発展がなかなかできなかったのも、場の設定の工夫をしたり異年齢の友だちの様子に興味をもてる声かけをしたりしていくとよい。	・ごっこ遊びへ発展するためにも、時間の確保をする。 ・場の雰囲気づくりのため、入れ物や机などの準備をする。

考察

繰り返して遊ぶことで様々な発見をする姿が見られた。とてもうれしそうに満足感を得ていた。保育者が一緒に驚いたり喜んだりすることで、遊びの楽しさやおもしろさを深めることができた。一方で、花びらや水などの素材そのものを楽しむために、もっと花びらで遊ぶ活動を楽しんでから、色水遊びへと進めた方がよかった。

友だちとの関わりをもてるように、「どうやって作ったの」「〇〇ちゃんと先生にもくさいな」などの声かけをして、子ども同士のやりとりにつながるように援助した。自分で作った「自分のもの」という思いを大切に、認めて受け入れた。今後、もっといろいろなことをして遊びたいという思いが出てきた時には、ジュース屋さんごっこなどへの発展をすることで友だちとの関わりを広げ、さらに遊びを深めていきたい。そのためには、じっくりと遊ぶための時間の確保が必要である。

春の草花で遊ぼう

5歳児 4月～6月上旬

主な遊びの流れ

4月。保育者は、春の自然に親しんで周りの様子に関心をもって見たり触れたりするきっかけを作りたいと考え、保育環境としてポケット図鑑や植物一覧表を準備した。子どもたちは、ポケット図鑑を持ち歩いて遊ぶことに興味をもち、植物の名前を確かめることからその後、植物そのものへの興味へと変化させていった。子どもたちは、使って遊びたい草花の場所を伝え合ったり、草花を使って BBQ のごっこ遊びを楽しんだりした。その後、色水遊び、草花を使った製作、コバンソウを使った遊び、カラスノエンドウの笛作り、シロツメクサの王冠・腕輪作り等々、遊びを発展させていった。

4月中旬

子どもの思い・願い

ポケット図鑑を使ってみたいな

捕まえた虫。このポケット図鑑に載っているかな？

ほら、この小さなお花。ここに載っているよ。

これは、シロツメクサの葉っぱ。クローバーだよ。赤でマルして。

子どもの姿

それぞれが見つけた植物を一覧表で確かめ赤丸で囲むことによって、みんなでいろんな種類の植物を見つけようとする。【自然との関わり・社会生活との関わり(情報活用)】

知ってるよ。この花はパンジーって言うんだよ。

紫が楽しいよ。

見て、見て！
こんなことができるよ。

保育者の援助

園庭に見られる植物を1枚に収めた図鑑を貼り出す。



いつも色水遊びで使っているこの花は、何って言う花が知ってる？

どの色が好き？

5月上旬

草パーティ(BBQ)をしようよ

使いたい草花のある場所を互いに伝え合ったり、一人のアイデアを発端に、草を使った BBQ ごっこをしようとみんなで準備したりする。【協同性・言葉による伝え合い】

みんなで、草パーティしよう！

はじめに、土を洗って落とそうで。

それぞれがイメージする BBQ に必要な物を考え、互いに自分の考えや準備しようとしている物を伝え合い、一緒に作りあげようとする【協同性】

食べ物もいるよね。これをご飯にしよう。

こんなジュースはどう？

見て！この色！

ピンクのジュースもできてるよ。

その草、どこにあるの？教えて！

こっち、こっち。
こっちにあるよ。
ぼくが教えてあげる。

このボウボウの草を使って、草色のジュースを作ろうや。

違う色のジュースも作ろう！私、紫のを作る。

私は何作ろうか

この赤色のも作ってみる。

これまで何度も経験した遊びなので、子どもたちのよいアイデアや気づきを認め、言葉で他の子どもたちに共有する程度にとどめ、なるべく見守ることに徹した。

この赤色は、火にも使えるんじゃない？

かんぱ〜い！！

料理をお皿に乗せて・・・

さっきのジュースを使って、
ここで BBQ しよう。

互いにイメージする BBQ
の様子や準備しようとしている
物を伝え合い、一緒に作りあげ
ようとする【協同性】

この花が火で、この上に
網を置いたら BBQ っぽ
いよね。

わたしもこんなの
作って遊びたい

シロツメクサの王冠
作ってみたいな。

寝転んじやった！
気持ちいいよ。

体全体で植物に触れ、心地よさを
感じる。【自然との関わり・生命尊重】

ぼくは、何を作ろうかな？

気持ちいいね。
何か一緒に作ってみる？
腕輪もできるよ。

お～い！
こっちにたくさん
お花があるよ。

「草花でこんな遊びもできるよ」
と、製作例を展示する。

一緒にシロツメクサの王冠を
作り、作り方を見せる。

ピーピー豆(カラスノエンドウ)で
笛を作って鳴らしたい

ピーピー豆ってどこに
あるのかな。

こんなよく膨らんだ豆
を使うと、音が鳴りやすい
みたいだよ。

うまく音を鳴らすために、豆の
選び方や作り方、手伝ってほしい
ところなど、保育者、友だち同士
で互いに伝え合う。【言葉による
伝え合い】

6月上旬

ほらほら、鳴ったよ！

わたし、
鳴らせるようになったよ！

自分で考えたアイデアを試し、
自分なりの作品を作ったり、遊
びを始めたりする【自立心・豊か
な感性と表現】

ピーピー豆(カラスノエンドウ)で
笛を作って鳴らしてみせること
で、興味をひき、一緒にカラスノ
エンドウを探して遊びのきっかけ
をつくる。

ここまで作ったよ。作り
方、これであって？

うん。次は、こうするん
だよ。

先生、ここから
手伝ってください。

わたしも、ちょっと鳴った
よ。鳴らすの、難しいね。

枝とお花で、こんなの作っ
てみたよ。持って帰ってお母さ
んに見せたいな。

個々のアイデアや遊びを認め、
よさを他の子どもに紹介して、
遊びが広がっていくようにする。

まだまだ、自分で工夫して
遊んでみたいな

考察

身の回りの様々な自然に触れ、一つの自然遊びのみならず、興味を継続して子どもたちなりに遊びに植物を取り入れていってほしいと考えた。子どもたち自らが考えた遊びが盛り上がるように見守りつつ、いくつかの植物遊びを保育者が紹介したり、みんなで一つの遊びにチャレンジする場を設けたりした。遊びが停滞し始めたときには、子どもたちの意識が次の遊びへと移行できるように、新しい遊びを提示することで、子どもたちが2ヶ月にわたって自然に触れて遊び、自分なりに考えて遊びを作り出していく様子が見られた。

【評価】春の草花で遊ぼう(5歳児4月～6月上旬)

評価の視点(10の姿) ◎子どもの姿 ☆援助と環境構成	・子どもの姿や思い、保育者の読み取り ○保育者の思いと援助 ◎援助に応じた子どもの姿	○よかった点 ●改善点	・引き継ぎ、指導計画への反映
◎好奇心をもち、自分たちで調べたり遊んだりする体験を通して、植物の特性の知識が深くなり、園内のどこにどんな植物があるか把握し、自分たちで工夫して遊ぶ。(⑦) ☆葉の色・形・大きさ・自然の不思議さに興味をもちたり、季節の変化に気付いたりできるように、子どもの気付きを受け止め、自然に関する関心が深まるような雰囲気作りをする。(⑦)	・いろいろな植物の名前を調べたり、友だちが見つけていない植物を見つけようとしたりするなど、植物を探すことから、草花を使った色水遊び、製作、笛作りや、自分たちでイメージした「○○パーティー」など、工夫して遊んでいた。 ○「どの草花、どこにあったの?」「おもしろいアイデアだね」などと声かけをかけ、「もっといろんな植物を使って遊びたい」という気持ちを引き出した。コバンソウ鉄砲やカラスノエンドウ笛作りでは、遊びに適した枯れ具合や膨らみ具合を考えさせるようにした。 ◎どこにあるか、どんな状態の植物を使っているか等、友だちの様子をよく観察したり、作り方を友だちに聞いたりして遊んでいた。	○園内の主な植物を一覧にした図鑑をテラスに貼り出すことによって、さらに興味が高まった。 ○子どもたちの工夫や発見をその都度認める声かけをすることで、遊びが広がっていった。 ●植物を使った作品作りをたくさん紹介したが、関心が低く一時的な遊びだけに留まった。内容や頻度など、どの程度を求めるのか再考が必要である。	・一つの遊びだけでなく複数の遊びを次々と紹介することで、停滞することなく長い期間、様々な草花遊びをすることにつながった。 ・ポケット図鑑、植物一覧表の配置場所等の熟考。
◎友だちと自分のイメージが重なることで共通の願いをもち、自分なりの役割を見つけたり、友だちのよさを感じたりして、活動を楽しむ。(③) ◎自分のイメージしていることを実現するために試行錯誤しながら根気強く取り組み、友だちの考えやアドバイスを受け入れてよりよい方法を考えようとする。(③) ☆友だち同士で教え合っている場面を見守ったり、どうしたらいいのか問いかけて協力し合うきっかけを作ったりして、子どもに任せる場面と援助する場面を見極める。(③)	・友だちが植物を使って遊んでいる様子を見て、同じように遊びたいと考え、どこにその植物が生えていたか聞き、その都度「○○パーティー」と名付け、意気投合して遊んでいた。 ○友だち同士で協力し楽しんでいる時には、保育者が見守りながら一緒に楽しみ、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようにした。 ・「笛を作って音を出したい」と、友だちと共通の願いをもって、友だちの思いついた方法を認め、取り入れながら遊んでいた。 ○「強くて長い根っこだね」「そんなに膨らんだ豆を使っているんだね」などと、子どもたちの気付きを言葉で紹介することで、友だちの発見や工夫に目が向けられるようにした。 ◎友だちの真似をしてさらに工夫し、声をかけ合いながら自然と協力して遊ぶ楽しさを感じている様子だった。	○友だちの具体的な気づきを言葉に表すことで、そのよさを感じて真似をし、「一緒に作りたい」「自分もできるようにしたい」という思いが生まれた。 ●子どもたちが保育者に頼ろうとすることが多いときには、子どもの心に寄り添いながら、できるようになった子どももへ目を向けさせるなど、子ども同士をつなげていくように援助の方向性を検討する。	・人数の少ないクラスでは、遊ぶ場所を自由にすると子ども同士の関わりがでにくい。年度始めは、場所を絞って遊ばせ、子ども同士の関わりが十分に見られるようにした。その後、場所を広げていくように設定したい。

まとめ

今年度は、特に「友だちとつながり、遊びを深める」ことをテーマに研究に取り組んできた。

3歳児の色水遊びでは、友だちとの関わりの中で、気付いたことや発見したことを伝え合う姿があった。また、子どもたちの思考の流れに沿って、自然にヤマモモなどの実を使った遊びに発展していった。このように、子どもの思考や発言から新たな遊びへ広がり、友だちとのつながりが増えることで、さらに遊びが発展し深まっていった。保育者は、子どもの思考の流れを大切に丁寧に見取ることで、遊びのつながりを今まで以上に意識するようになり、長期間の保育の見通しをもちやすくなった。子どもたちは、友だちと動作や表情、言葉などのやりとりをしながら関わり合い、達成感や満足感を感じながら遊ぶ様子が、今まで以上に見られるようになったと感じている。

子どもたちにとって、遊びは学びそのもの。これからも子どもたちが豊かな経験を積み重ねる保育を実践し、夢中になって遊ぶ子どもの姿を目指していきたいと考えている。



おわりに

『遊びを深める』とは、どういう子どもの姿だろう」という疑問から今年度の研究はスタートしました。本園は、長年の研究で培ってきた実践の記録を参考にしながら保育の計画を立てています。色水遊び、砂遊び、ごっこ遊び、園内の様々な場所で工夫した遊びがくり広げられ、子どもたちの楽しそうな声が聞こえてきます。しかし、「遊びが単発になっていないだろうか」「十分に遊びつくしたと言えるだろうか」という疑問がわいてきました。そこで、今年度はもう一度遊びについて考えるところから研究を始めました。

フォトトークをして、職員みんなでじっくりと保育について語り合ったり、フォトエピソード記録を作成して記録の取り方を工夫したりしていきました。職員の遊びに対する見取りが深まってきたことで、子どもたちの遊びに広がりが出てきたと感じています。

「汽車が出ますよ。」「お乗りの方は券売機で切符を買ってください。」5歳児の汽車遠足から派生した汽車ごっこは、3歳児や4歳児も巻き込み、毎朝の登園時に園児玄関から保育室までを運行する通勤電車となりました。

子どもたちのために「もっと深く、もっと楽しく」と遊びを追求し続ける職員集団であり続けたいと思います。

ご一読いただき、忌憚のないご意見・ご感想をいただければ幸いです。

副園長 志和 智恵



令和6年2月発行



〈発行者〉

国立大学法人 鳥取大学附属幼稚園

〒680-0941 鳥取県鳥取市湖山町北2丁目465番地

TEL:0857(28)0010 / FAX:0857(31)3321

Email: fuyou@fuzoku.tottori-u.ac.jp

HP: <http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/youchien/>